

目的 ・構成要素の秩序づけは、調和感を求めて位置づけられるものである。しかし調和感ということ自体が抽象的であり、さめて複雑であり個別的である。これを構成の原理にかかわる内容として、理論的に理解させることは容易でない。そのため一般的に感性的なことが主体となりがちであるが、抽象的であるものを感覚的に指導していくことは、さらに容易でない。

発想は個人的であり情動的、主観的であるが、それに対して構成の原理は、一般的・普遍的なもので客観的なものである。

発想と構成の原理とは、それぞれ性格の違ったものであるから、その融合の実践は段階的な方法を持たねばならないと考える。

そこで今回は、はじめに発想領域が限定された条件設定で演習を行った場合、どのような構成の原理にもとづいた秩序づけの展開が可能であるかと考察する。

方法 ・演習の導入はWertheimerの群化の法則から「類似の原理」と応用する。

- ・短時間で直感的に発想させるテスト形式ととり、継続的に行う。
- ・発想の核となる図形を、単一なものから徐々に複雑な要素が加わったものに変えていく。
- ・フォーマットの条件を段階的に変化させて、各ステップでコメントさせる。

結果 ・プロセスでパターンの拡大によって生じる誤差を修正することで造形意識の変化があらかになる。エレメントの秩序だてかたが、コメントの内容と照合することによって、適当であるかどうかの判断が可能となり、指導のステップをあとづけることが出来る。